

養鶏産業で成功するために（続） 3

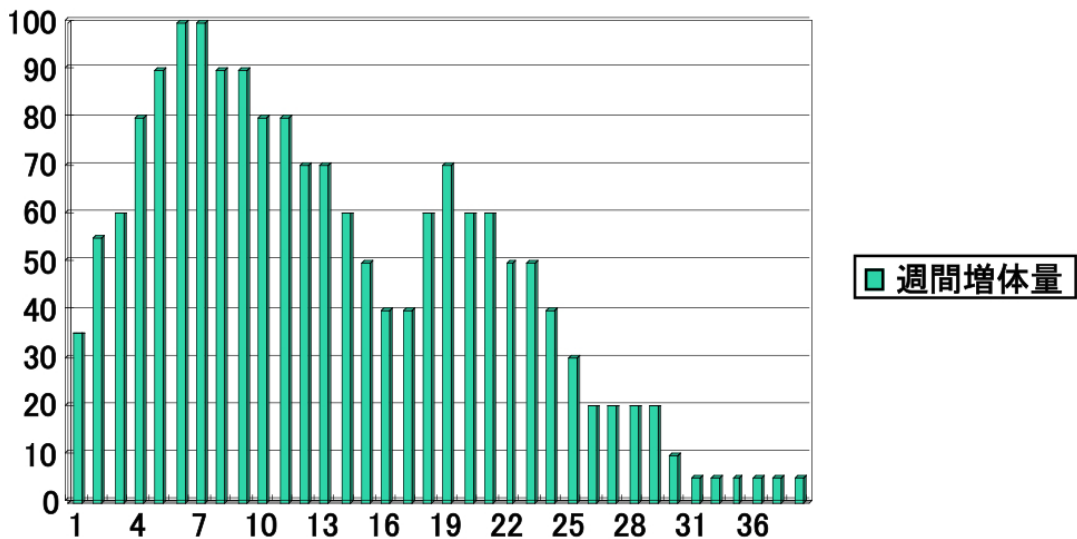
株式会社アスコ附属研究所
顧問 船橋 史憲

今回は良い管理をテーマにしました。

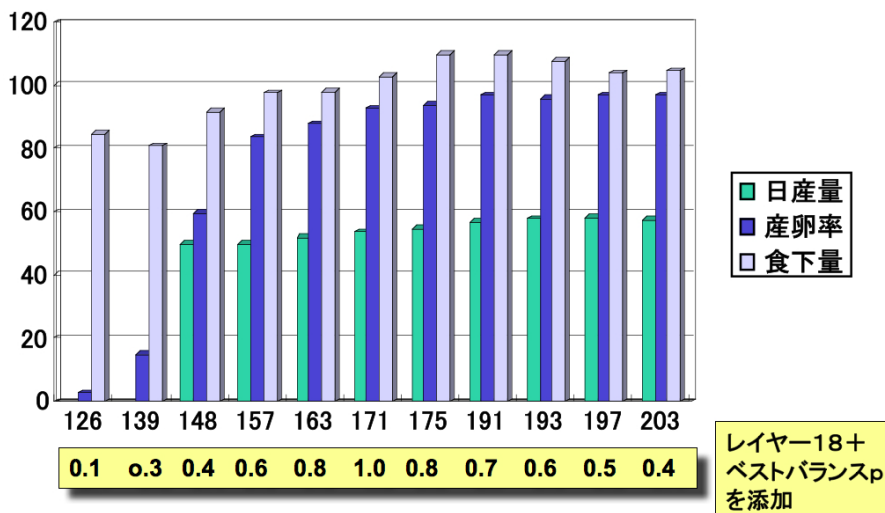
鶏の管理で大事なことは温度・湿度と換気量と給餌量に給水量の把握です。マニュアルに沿って管理されているかのチェックは体重の推移やバラツキで分かります。飼料の切り替えは与えた量を気にするのではなく、マニュアル体重に到達してから行うと良いでしょう。育成の良し悪しで将来の成績は決定します。またほとんどの農場ではデビューをしますが、上手な人が慌てず行うことでよい成績を生みます。大雛が小さく育った場合は点灯管理を遅らせるぐらいの融通は大切なことです。点灯用電球の汚れの掃除、切れていることのないようにするといった迅速な対応も重要です。

成鶏導入時の鶏舎の照度設定は白玉鶏より赤玉鶏を少し明るめにするとか、赤玉鶏は必ずEDS-76の接種を実施しておくことなど、鶏種によっては(一般的には体格の小さい鶏)オイルワクチンを多用しないとか、成鶏期の管理ではたえず生産量、卵重の大きさの推移、食下量、飲水量の記録を取り、適切な管理が出来ているかをチェックすべきでしょう。

ジュリアの各週齢の標準体重増加量



ジュリアライトの産卵率と食下量 2008.9.23



養鶏産業で成功するために（続）3

株式会社アスコ附属研究所
顧問 船橋 史憲

鳥を放置しないことはケージ内の滞留卵を少なくし、鮮度の良い卵の確保と汚れた卵の発生を減らし、クレームを減らし、卵の衛生面でも必要なことです。

また最近ではワクモの被害が大きいため、成鶏導入前の鶏舎の消毒・殺虫を充分に行うことがあとあと良い成績を生みます。

ネズミは飼料の損失だけでなく、サルモネラ汚染の危険率を高め、また火事や換気扇の停止とかの事故にもつながりかねません。またハエや野鳥侵入の防止は世界的に問題になっているトリインフルエンザの予防には欠かせません。野鳥の糞による鶏の飲み水の汚染はあってはならないことです。また斃死鶏の原因追求は多大な被害にならないためにも必要なことです。普通1群で2ケタ位から要注意となります。

また最近の立体式のケージ飼育ではコクシジウム症とクロストリジウム症の発生が見られます。ともに発生してから投薬は産卵中ですから困難です。除糞シートの1回転を常に心がけましょう。

また成鶏導入後2～3ヶ月間と特に暑い季節に多いので、発生経験のある農場ではミヤリサンや乳酸菌製剤とかサルトーゼ等の投与が推奨されます。

そして今一番必要なことはワクモ対策で、産卵中の鶏に投与できる殺虫剤が少なく、効果が充分に出ていない状態です。農業指定のないニームオイル製剤を活用しつつ、ワクモの巣を壊す目的で鶏舎の掃除が必要です。

鶏はいくら上手に飼育しても様々な要因で体躯の大小が生まれます。たとえばデビークの切り過ぎの雛は発育が遅れます。バラツキが大きくなるようにするには飼料中の粒と粉が分離する給餌ムラが機械の種類や餌樋の変形によって起きますので、樋の修理や機械の調整は毎日の仕事となります。

場所による飼育羽数のバラツキは体躯のバラツキを産みますし、夏などは上段を涼しくする管理ができないと餌が下段に比べれば残り、鶏による選り食いをまねき鶏のバラツキが生じ、産卵成績が落ちます。逆に冬場の下段は低温のために産卵がおちて、卵が大きくなりすぎます。

鶏の2008年前半餌付け羽数

